

## 前提事項

- 「熊野東防災交流センター」は、令和3年5月に工事が完了し、6月に開所された新しい施設。
- 熊野町では、町内を東部・西部・中央部の三つに分け、それぞれに防災拠点施設を整備する構想があり、当センターは、そのうち、東部の防災拠点施設として建設された。
- 設計の段階から、避難所として利用されることが想定されており、設備が充実している。



熊野東防災交流センターの外観

## 検討会の流れ

熊野東防災交流センターでは、全部で4回の検討会を実施してマニュアルを作成した。

### 【第1回検討会の主な議事内容】

- 検討会の目的
- 熊野町で起こる可能性のある災害と避難
- 熊野東防災交流センターの避難所としての機能（視察）



### 【第2回検討会の主な議事内容】

- 避難所開設の流れと役割分担
- 避難所運営の流れと役割分担



### 【第3回検討会の主な議事内容】

- 避難所開設の实地訓練
- 避難所運営の实地訓練の振り返り



### 【第4回検討会の主な議事内容】

- 避難所運営時の対応と流れの確認と意見交換
- 避難所開設・運営体制の強化

## 熊野町職員の意見

避難所での協力体制について町民と一緒に検討できて良かった。今後、ますます地域の皆さんに施設を知っていただき、避難しやすい環境を整えていきたい。

## 検討会の参加者

- 地域住民：10名（近隣の6つの自主防災会及び自主防災組織）
- 行政職員：5名
- 施設管理者：1名

## 検討会で話し合った内容

### (1) 熊野町で起こる可能のある災害と避難

- 熊野町の被害想定をもとに地震災害と風水害それぞれで被害と影響を確認した。
- ハザードマップを見て地域の災害リスクを確認し、自宅の浸水リスク、避難所までの安全な避難経路、避難のタイミングなどをワークショップで確認した。



ワークで使用した避難シート

### (2) 熊野東防災交流センターの避難所としての機能

- 避難所の設備や機能、備品、備蓄等を確認するため、施設内の視察を行った。
- 施設管理者の案内のもと、地域住民と質疑応答をしながら、各部屋の確認を行った。



施設の視察のようす

## 検討会参加者の声

地域住民

自宅が浸水の危険性があることがわかった。

地域住民

避難所内の設備を実際に見て、どういふものがあるか、またその使い方を知ることができた。

### ▶ 参考になるポイント

#### 避難所としての機能が充実した施設の説明

平成30年7月豪雨の経験を踏まえ、住民の意見を取り入れて、避難所としての機能をあらかじめ盛り込んだ施設であるため、避難所を十分に活用するために、その機能や設備等がどういふものであるか、周知しておく必要があり、視察を行うことで、実際に、どこに何があるかなど、地域の皆さんにも確認していただくことができた。

## 検討会の参加者

- 地域住民：10名（近隣の6つの自主防災会及び自主防災組織）
- 行政職員：5名
- 施設管理者：1名

## 検討会で話し合った内容

### (1) 避難所開設の流れと役割分担

- 実際の状況を踏まえた、災害種別による避難所開設時の対応の流れと、住民に協力してもらいたい活動を確認していただいた。
- 避難所開設時のひとつひとつの対応に対し、地域住民が協力できるところを検討し、発表していただいた。

【意見交換】 避難所開設における役割分担

円滑な避難所開設のためには、みなさんのご協力が不可欠

避難所開設の 段階	安全確認				避難所運営		要入札 避難所の 運営
	避難所の 安全確認	避難所の 安全確認	避難所の 安全確認	避難所の 安全確認	避難所の 安全確認	避難所の 安全確認	
避難所 開設時	●	○	○	○	○	○	●
避難所 運営時	○	●	●	●	●	●	○
避難 終了	○	○			○	○	○

●…主担当  
○…協力

避難所開設の対応と流れ

### (2) 避難所運営の流れと役割分担

- 避難所の実際の状況に即して、避難所運営時にどういった活動が必要になるかを確認した。
- 避難所運営時の活動について、誰が、どの役割を担うか等を話し合い、発表していただいた。



検討のようす

## 検討会参加者の声

地域住民

開設時の施設の安全確認のような、責任を問われるところは、住民がやるのは荷が重いのではないか。

地域住民

避難所運営で、住民が協力できないところは特にはないと思われる。

### ▶ 参考になるポイント

#### 避難所運営を経験した施設管理者による当時の状況説明

同施設は、令和3年7月に避難所として開設した。施設管理者から、そのときの実態について、また、地域住民に協力していただきたいところについて、説明していただいた。これを踏まえ、避難所開設時の役割分担を検討した。検討するにあたって、担当者を決めるとその人が来れない場合もあるため、住民全体として、協力できるところについて検討した。

## 検討会の参加者

- 地域住民：10名（近隣の6つの自主防災会及び自主防災組織）
- 行政職員：5名
- 施設管理者：1名

## 検討会で話し合った内容

### (1) 避難所開設の現地訓練

- 避難所開設時の対応と流れを確認したあとで、避難所開設時に使用するマニュアル（たたき台）の見方と様式の使い方について説明した。
- 施設及び施設内の設備、備品等を実際に活用して、避難所開設の対応と流れを確認した。



現地訓練の様子

### (2) 避難所開設の現地訓練の振り返り

- 現地訓練を振り返り、避難所開設時のひとつひとつの対応とマニュアル、様式に対し、適切かどうか、グループごとに検討した。
- 検討した内容について、グループごとに発表し、全体で共有した。



振り返りの結果

## 検討会参加者の声

 地域住民

避難者登録名簿の記入事項が多いため、避難者が殺到した場合に、避難者を待たせることになるのでは？

 地域住民

居住スペースを土足禁止にするのか。その場合、どこで靴を脱いで、置いておくのか、検討する必要がある。

## ▶ 参考になるポイント

### 避難所開設時における対応の現地での確認

避難所開設時における対応について、実際に使用する備品なども活用しながら、実地で検証することで、こういった作業が発生するか、こういった準備をしておく必要があるか、検討メンバー全体で共有することができた。また、マニュアルの見せ方や様式のあり方についても、実際に使用していただくことで、修正点や追加点を発見することができた。

## 検討会の参加者

- 地域住民：7名（近隣の5つの自主防災組織及び自治会）
- 行政職員：5名
- 施設管理者：1名

## 検討会で話し合った内容

### (1) 避難所運営時の対応と流れの確認と意見交換

- これまでの調査や検討の成果として作成した、避難所開設・運営マニュアルの見方や内容の説明を行った。
- また、グループに分かれて、避難所を運営する際の各班の対応と流れについて確認した。そのあとで、グループごとに意見交換をして、発表した。



発表の様子

### (2) 避難所開設・運営体制の強化

- 地域住民から、避難所開設・運営を担う避難所運営委員会のリーダーとして、本部長を選出した。また本部長を支える副本部長を複数名選出した。



本部長の選出

## 検討会参加者の声

 地域住民

避難者同士の情報交換の場や、伝言板のようなものも必要では？たとえばペットの飼い主の情報交換など。

 地域住民

災害が発生した際のガス・電気の状況が心配。使えない場合の検討も必要ではないか？

### ▶ 参考になるポイント

#### 避難所運営時の対応と流れについての読み合わせ訓練

避難所運営時の対応は多岐にわたっており、一度にすべての訓練を実施するのは困難である。そこで、避難所運営時の対応をいくつかの班に分け、読み合わせ訓練では、各グループが1班ずつ、対応について読み合わせと意見交換をして、全体に発表した。この訓練により、まずは避難所運営時に実施すべきことを把握し、また検討することができた。今後は、これを踏まえ、各班の対応について、より実際に近い訓練を実施していく。

## 前提事項

- 「中通地域交流センター」は平時は地域の活動の拠点として活用されている施設である。
- 浸水想定区域に含まれており、浸水害時には2階が指定避難所として指定されており、平成30年7月豪雨災害の際には、避難所として開設された。
- 検討会に参加する地域住民は、当該学校区内の全ての地区の役員及び女性を検討メンバーにするという点に注意して参加を募った。



中通地域交流センターの外観

## 検討会の流れ

中通地域交流センターでは全部で4回の検討会を実施してマニュアルを作成した。

### 【第1回検討会の主な議事内容】

- 検討会の目的
- 竹原市で起こる可能性のある災害と避難
- 避難所の開設と受入れ



### 【第2回検討会の主な議事内容】

- 避難所開設の流れと主な活動
- 避難所運営の流れと主な活動
- 避難所運営にあたっての役割分担と体制



### 【第3回検討会の主な議事内容】

- 避難所レイアウトの検討
- 避難所開設の実地検証
- 避難所開設の流れの振り返り



### 【第4回検討会の主な議事内容】

- 避難所運営時の対応の確認・検討
- 避難所ルールの検討
- 代表者の選任

## 竹原市職員の意見

初めは避難所運営への参画に消極的だった地域住民の方も、4回の検討会を通じて、地元住民の参画の重要性を理解していただき、市内で初めて、避難所運営に地元住民が参画する体制を構築することができよかった。

## 検討会の参加者

- 地域住民 : 13名 (近隣の4つの住民自治組織)
- 行政職員 : 4名
- 施設管理者 : 1名

## 検討会で話し合った内容

### (1) 竹原市で起こる可能のある災害と避難

- 竹原市の被害想定をもとに地震災害と風水害それぞれで被害と影響を確認した。
- ハザードマップを見て地域の災害リスクを確認し、自宅の浸水リスク、避難所までの安全な避難経路、避難のタイミングなどをワークショップで確認した。



ワークで使用した避難シート

### (2) 避難所の開設と受入れ

- 避難所の開設と受入れの流れについて実際の被災地の写真などをもとに確認した。
- 開設にあたって地域住民としてどんな協力ができるかをグループで話し合っ発表していただいた。



グループで検討する様子

## 検討会参加者の声

### 地域住民

事前に「何を」「どのように」実施するのか、取り決めがされていれば、住民が協力できることもある。

### 施設管理者

施設が開館している時間帯で、施設が受け入れられる規模の避難者数であれば、対応することはできる。

## ▶ 参考になるポイント

### 中通小学校区協働のまちづくりネットワーク会長からの参加者への趣旨説明

当該学校区の自治会連合会にあたる中通小学校区協働のまちづくりネットワーク会長から、参加した地域住民に対して、全4回の検討会を通じて検討する目的や趣旨および避難所運営にあたっての地域住民の協力の必要性を説明したことで、参加者全員の認識が統一され、地域住民が前向きに検討会に参加することができた。

## 検討会の参加者

- 地域住民 : 13名 (近隣の4つの住民自治組織)
- 行政職員 : 2名
- 施設管理者 : 2名

## 検討会で話し合った内容

### (1) 避難所開設の流れと主な活動

- 施設の平面図や避難所開設時に使用する様式をもとに避難所開設の流れや地域住民に協力してもらいたい活動を確認した。
- 開設時にあたって、地域住民、施設管理者からどのような対応をとるのか話し合い、発表していただいた。



活動を確認する資料

### (2) 避難所運営にあたっての役割分担と体制

- 竹原市避難所運営マニュアルを参考にした避難所運営の組織体制案を確認した。
- 避難所運営の活動について、誰が、どの役割を担うか等を話し合い、発表していただいた。



グループで検討する様子

## 検討会参加者の声

### 施設管理者

施設が開館している時間帯は、施設管理者が中心となり、開設時の対応を行っていく。

### 地域住民

避難所の清掃など、避難者ができることは避難者にもやってもらう。

## ▶ 参考になるポイント

### 避難所運営体制の考え方

避難所運営の組織体制について、それぞれ1つの班を、1つの地区が担当することを検討できるよう地区の数にあわせて、4つの班で構成される班体制とした。意見交換を経て、結果的には1つの班を1つの地区が担当することにはならなかったが、地区の数などの実態にあわせて組織体制を考えることも重要。



## 検討会の参加者

- 地域住民 : 17名 (近隣の4つの住民自治組織)
- 行政職員 : 3名
- 施設管理者 : 1名

## 検討会で話し合った内容

### (1) 避難所運営時の対応の確認

- 避難所開設・運営マニュアルをもとに、運営時の対応について、各班ごとに分かれて、マニュアルの記載内容や対応などを確認した。
- 自分たちの避難所にあったマニュアルを作るという視点で、マニュアルの改善点や必要になる資機材等について意見交換し、発表していただいた。



グループで検討する様子

### (2) 代表者の選任

- 避難所開設・運営にかかる避難所検討委員会の代表者および副代表者について意見交換し、代表者および副代表者を決定した



発表する様子

## 検討会参加者の声

 地域住民

避難者の把握を行うには、レイアウトであらかじめ地域分けを検討する必要がある。

 地域住民

共有空間の掲示を大きくして誰にでもよく見えるようにする必要がある。

## ▶ 参考になるポイント

### 代表者の選任について

代表者および副代表者の選任にあたっては、個人を指定せず、当該地域の自治会振興会（連合会）の会長が代表者、会長以外の自治会長が副代表とすることとした。役割を個人に固定せず、役職の任期にあわせ持ち回りで、代表者等を担当する仕組みとすることができた。

## 前提事項

- 「大田自治センター」は平時は地域の活動の拠点として活用されている施設である。
- 平成30年7月豪雨災害の際には、避難所として開設された。
- 検討会に参加する地域住民は、まちづくりコミュニティの活性化、地区内の自主防災会からのメンバーの参加という点に注意して参加を募った。



大田自治センターの外観

## 検討会の流れ

中通地域交流センターでは全部で4回の検討会を実施してマニュアルを作成した。

### 【第1回検討会の主な議事内容】

- 検討会の目的
- 世羅町で起こる可能性のある災害と避難
- 避難所の開設と受入れ



### 【第2回検討会の主な議事内容】

- 避難所開設の流れと主な活動
- 避難所運営の流れと主な活動（運営にあたっての体制を含む）



### 【第3回検討会の主な議事内容】

- 避難所レイアウトの検討
- 避難所開設の実地検証
- 避難所開設の流れの振り返り



### 【第4回検討会の主な議事内容】

- 避難所運営時の対応の確認・検討
- 避難所ルールの検討
- 代表者の選任

## 世羅町職員の見解

世羅町では、西日本豪雨災害等を経験し、町職員のみでの避難所運営には限界があり、町・施設管理者・地域住民が共同で避難所運営を行う仕組みづくりが必要だと感じていました。今回モデル地区事業に参画し、施設管理者、地域住民の皆さんとご意見を交わし、大田自治センターの避難所マニュアルを策定させていただきました。今後、このマニュアルを活用して防災訓練に取り組み、他の指定避難所マニュアルも策定して、地域防災力の向上につなげていきたいと考えています。

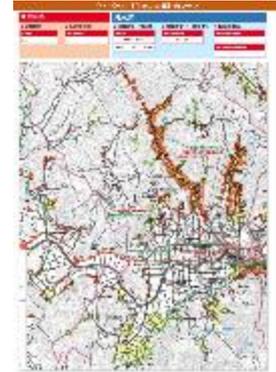
## 検討会の参加者

- 地域住民 : 18名 (近隣の住民自治組織と自主防災会)
- 行政職員 : 1名
- 施設管理者 : 2名

## 検討会で話し合った内容

### (1) 世羅町で起こる可能のある災害と避難

- 世羅町の被害想定をもとに地震災害と風水害それぞれで被害と影響を確認した。
- ハザードマップを見て地域の災害リスクを確認し、自宅の浸水リスク、避難所までの安全な避難経路、避難のタイミングなどをワークショップで確認した。



ワークで使用した避難シート

### (2) 避難所の開設と受入れ

- 避難所の開設と受入れの流れについて実際の被災地の写真などをもとに確認した。
- 被災地の実態を踏まえ、開設にあたって町職員や施設管理者だけでなく、地域住民と自主防災会の協力の必要性を確認した。



検討する様子

## 検討会参加者の声

地域住民

自らの地域に認識していなかった災害リスクがあることがわかった。

地域住民

避難所として利用するにあたって、施設にどれだけ必要な資機材があるのか確認したい。

### ▶ 参考になるポイント

#### 地域の災害リスクを踏まえた避難所運営を検討

特に風水害においては、地域によっては指定避難所までの避難ルート上に災害リスクがあり、避難所への避難が困難な地域もある。地域の災害リスクを再確認し、地域全体で共通の認識を持ち、災害リスクを踏まえて避難所運営体制を検討することも重要。

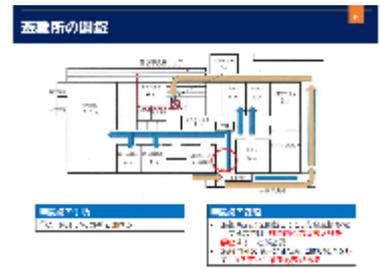
## 検討会の参加者

- 地域住民 : 22名 (近隣の住民自治組織と自主防災会)
- 行政職員 : 1名
- 施設管理者 : 2名

## 検討会で話し合った内容

### (1) 災害ごとの避難所開設の流れと主な活動

- 施設の平面図や避難所開設時に使用する様式をもとに避難所開設の流れや地域住民に協力してもらいたい活動を確認した。
- 開設時にあたって、地域住民、施設管理者からどのような対応をとるのか話し合い、発表していただいた。



活動を確認する資料

### (2) 避難所運営の流れと主な活動

- 避難所運営の活動について、被災地の事例の写真を基にどのようなことを行うのか確認した。
- 避難所運営にあたって協力できることについて、グループで意見交換し、発表していただいた。



グループで検討する様子

## 検討会参加者の声

### 施設管理者

避難所開設等にあたって、地区全体として対応ができるよう備えていく必要がある。

### 地域住民

避難所運営の対応について、地区から応援に行ってもらえるなども考えていけないといけない。

## ▶ 参考になるポイント

### 避難所運営の検討を通じた地域防災力の向上

同じ地区内であっても、それぞれの住民自治組織によって防災の取り組みが活発な組織とそうでない組織がある。避難所運営を地区全体で行っていくための検討を通じて、地区の防災力の向上の必要性を認識することで、地区全体で防災の取り組みを進めるためのきっかけになる場合もある。

## 検討会の参加者

- 地域住民 : 21名 (近隣の住民自治組織と自主防災会)
- 行政職員 : 1名
- 施設管理者 : 2名

## 検討会で話し合った内容

### (1) 避難所レイアウトの検討

- 実際の避難所の写真や施設の避難所レイアウト (たたき台) をもとに、避難所にはどのような部屋やスペースが必要となるのか確認した。
- 避難所として利用する場合のレイアウトについて、意見交換し、発表していただいた。



避難所レイアウト (たたき台)

### (2) 避難所開設の流れの振り返り

- 実際に行う活動について、マニュアル (たたき台) を見ながら、施設のそれぞれの場所で確認した。
- マニュアル (たたき台) に反映したほうがよいことなどを意見を発表していただいた。



活動の確認の様子

## 検討会参加者の声

地域住民

要配慮者や性別、体調不良者などに配慮した場所の設定が必要だと思う。

地域住民

要配慮者に配慮し、段差がない場所を要配慮者スペースにしたほうがよいのではないかな。

### ▶ 参考になるポイント

#### 避難所開設・運営における活動の実地での確認

避難所開設・運営における活動について、具体的な作業を実地で検証することで、必要な物品や資機材などがどこにあるのかなどを検討メンバー全体で共有することができ、また改善点を発見することができる。継続的に実地での訓練や検証を行い、活動内容のブラッシュアップにつなげる。

## 検討会の参加者

- 地域住民 : 20名 (近隣の住民自治組織と自主防災会)
- 行政職員 : 1名
- 施設管理者 : 2名

## 検討会で話し合った内容

### (1) 避難所運営時の対応の確認

- 避難所開設・運営マニュアルをもとに、運営時の対応について、各班ごとに分かれて、マニュアルの記載内容や対応などを確認した。
- 自分たちの避難所にあったマニュアルを作るという視点で、マニュアルの改善点や必要になる資機材等について意見交換し、発表していただいた。



検討の様子

### (2) 代表者の選任

- 避難所開設・運営にかかる避難所検討委員会の代表者および副代表者について意見交換し、代表者および副代表者の選任の方針を決定した。



発表の様子

## 検討会参加者の声

 地域住民

この施設や地域にあわせて具体的な記述内容にしていく必要がある。

 地域住民

必要な対応については、網羅されているため、マニュアルを手がかりに訓練などで詳細を確認したい。

## ▶ 参考になるポイント

### 避難所運営時の対応の確認方法

限られた時間内では、全員が全ての業務を確認することは難しいため、参加者を避難所の運営時の班構成と同じ数のグループに分け、1グループにつき、1つの班の業務を確認してもらい、グループ内で意見交換した。

## // 前提事項

- 「くまの・みらい交流館」は平時は地域のコミュニティ活動の場として活用されており、地域住民にとっては馴染みの深い施設である。
- レベル2で状況によっては自主避難所として開設される。



くまの・みらい交流館の外観

## // 検討会の流れ

くまの・みらい交流館では全部で2回の検討会を実施してマニュアルを作成した。

### 【第1回検討会の主な議事内容】

- 検討会の目的
- 熊野町で起こる可能性のある災害と避難
- 避難所の開設と受入れ



### 【第2回検討会の主な議事内容】

- 避難所運営時における対応の内容確認
- 避難所運営時の対応で住民が協力できることの検討

## 熊野町職員の意見

新型コロナウイルス感染症の影響により思ったように検討会が開催できなかったが、地域の皆さんと一緒に避難所の開設・運営について検討を行うことで、協力体制が構築できた。

## 検討会の参加者

- 地域住民：12名（近隣の6つの自主防災会及び自主防災組織）
- 行政職員：4名
- 施設管理者：1名

## 検討会で話し合った内容

### (1) 熊野町で起こる可能のある災害と避難

- 熊野町の被害想定をもとに地震災害と風水害それぞれで被害と影響を確認した。
- ハザードマップを見て地域の災害リスクを確認し、自宅の浸水リスク、避難所までの安全な避難経路、避難のタイミングなどをワークショップで確認した。



ワークで使用した避難シート

### (2) 避難所の開設と受入れ

- 避難所の開設と受入れの流れについて実際の被災地の写真などをもとに確認した。
- 地域住民として開設時に協力できる業務が何かをグループで話し合っ発表していただいた。



役割分担を検討する様子

## 検討会参加者の声

 地域住民

自宅から避難所までの避難経路についても事前に検討しておく必要性を感じた。

 地域住民

避難所の開設と受入れにおいては、行政の方だけでなく私たち住民にもできることがあると知った。

## ▶ 参考になるポイント

### 避難所運営を経験した住民による当時の状況説明

平成30年7月豪雨災害で避難所運営をご経験された地域住民の方に、避難所では地域住民の協力が不可欠であること、実際の避難所運営では誰が何をすればよいか分からず混乱すること、避難所開設・運営マニュアルがあれば参考になることを説明していただいたことで、参加者全員が意欲的に検討会に参加できた。

## 検討会の参加者

- 地域住民：12名（近隣の6つの自主防災会及び自主防災組織）
- 行政職員：4名
- 施設管理者：1名

## 検討会で話し合った内容

### (1) 避難所運営時における対応の内容確認

- 避難所を運営していくにあたって、どんな対応が必要になるか、またその際のポイントについて説明を行った。また対応を実施するにあたっての組織編制等についても説明した。
- 説明する際に、実際に避難所を運営した経験のある住民に、当時の状況について話していただいた。



避難所運営時の対応の確認

### (2) 避難所運営時の対応で住民が協力できることの検討

- 避難所運営時の対応を確認したあとで、ひとつひとつの対応について、住民として協力できること、できないことについて検討した。



対応についての検討の様子

## 検討会参加者の声

### 地域住民

だいたいこのことは協力できるが、急に言われても困るので、事前の合意形成が重要ではないかと思った。

### 地域住民

個人情報の取扱いや、専門家でないことと対応できないこともあるので、補助的な協力をしていければと思う。

## ▶ 参考になるポイント

### 避難所運営を経験した住民による当時の状況説明

平成30年7月豪雨災害で避難所運営をご経験された地域住民の方に、避難所運営時の状況や対応、当時の課題等について、話をしていただいた。そのあとで、より実態に即して、避難所運営時に協力できることや、協力しなければならないことについて、検討することができた。

## 前提事項

- 平成26年8月豪雨、平成30年7月豪雨時に土砂災害が発生した、広島市安佐北区にある小学校。
- 地域防災リーダー（防災士）を中心とした、防災に関する取組みが充実している。
- 落合小学校では、地域の自主防災組織（連合会）により、避難所運営マニュアルが作成されており、避難所運営を実施する体制（落合小学校指定避難所運営本部）も整備されている。



落合小学校

## 検討会の流れ

落合小学校では、全部で4回の検討会を実施してマニュアルを作成した。

### 【第1回検討会の主な議事内容】

- 避難所運営マニュアルの作成について
- 落合小学校周辺の危険について
- 要配慮者支援の必要について



### 【第2回検討会の主な議事内容】

- 安否確認システムの登録について
- 訓練企画・既存マニュアル内容の確認



### 【第3回検討会の主な議事内容】

- 避難所運営の効率化
- 各班の活動とポイント（マニュアル内容）
- 各班ごとの訓練内容と方法



### 【第4回検討会の主な議事内容】

- 災害を想定した避難訓練
- 避難所受付・運営訓練
- 訓練の振り返りとマニュアルへの反映

## 検討会の参加者

- 地域住民：約30名（落合学区自主防災会連合会）
- 行政職員：3名

## 検討会で話し合った内容

### (1) 避難所運営マニュアルの作成について

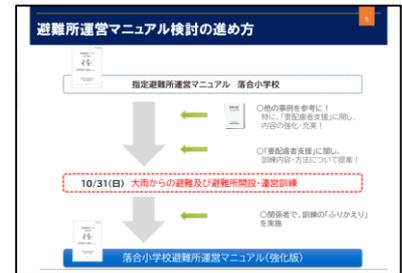
- 「落合学区」で既に作成している避難所運営マニュアルについて、その内容の強化・充実を図ることを基本的に、検討会を進めていくことを確認した。

### (2) 落合小学校周辺の危険について

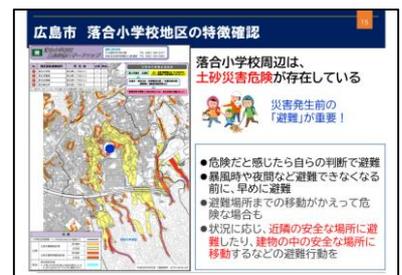
- ハザードマップを参考にしながら、落合小学校地区の特徴を確認した。特に、落合小学校地区には土砂災害危険があることから、災害発生前の避難行動が重要であること、同学区では、「メール連絡網システム」を活用した避難の呼びかけを行うことについて確認した。

### (3) 要配慮者支援の必要について

- 要配慮者支援の必要性、要配慮者支援のポイントについて、講義を通じて確認した。



検討の進め方



落合小学校の特徴整理

## 検討会参加者の声

地域住民

メール連絡網システムなどを通じた情報連絡の仕組みがあることがわかった。

地域住民

配慮を要する方には、様々な種類があり、それぞれ配慮を行う際のポイントがあることがわかった。

### ▶ 参考になるポイント

#### 既存の「避難所マニュアル」の内容の強化・充実のための検討会と訓練の実施

既にある「避難所マニュアル」に関して、その内容の強化を図ること、特に要配慮者支援についての内容強化を目指すこと、訓練を通じてマニュアルを検証し、災害対応力の実効性を高めることを目標に、検討会と訓練の実施を行うことを確認しました。

## 検討会の参加者

- 地域住民：約30名（落合学区自主防災会連合会）
- 行政職員：3名

## 検討会で話し合った内容

### (1) 安否確認システムの登録について

- 「落合学区自主防災会連合会」で整備している安否確認システムについて、その内容を確認するとともに、スマートフォンへの登録の方法を把握した。
- 参加者各人は、自分のスマートフォンへの登録手続きを行った。

### (2) 訓練企画・既存マニュアル内容の確認

- 10月に実施を予定している、避難所開設・運営訓練の内容について確認した。避難者の受け入れを行うとともに、各班で取り組む活動内容について、班長が訓練参加者に対して説明できるようになることを訓練の目標として設定した。

安否確認システム

近年は、地球温暖化の影響なのか、これまででない豪雨が毎年のように起こっています。そして、南海トラフによる大地震も予測されている中、防災として住民の安否確認が必要になります。高齢者等避難、避難指示、緊急安全確保と災害に備える時、そして万一災害が発生した時の住民の安否確認は、命を守るために不可欠です。早急な安否確認が命を守り安心を生みます。

住民の安否情報を、住民みんなで共有する、共助ツールの安否確認システムです。

スマートフォン 落合学区  
安否確認システム

氏名	性別	住所	連絡先	登録日時	登録状況	登録場所
0001	1階	落合 太郎	03-12-34-5678	2023/11/10	登録済み	自宅
0002	1階	落合 花子	03-12-34-5679	2023/11/10	登録済み	自宅
0003	1階	落合 一郎	03-12-34-5680	2023/11/10	登録済み	自宅
0004	1階	落合 美穂	03-12-34-5681	2023/11/10	登録済み	自宅
0005	1階	落合 健太	03-12-34-5682	2023/11/10	登録済み	自宅
0006	1階	落合 真由	03-12-34-5683	2023/11/10	登録済み	自宅
0007	1階	落合 誠也	03-12-34-5684	2023/11/10	登録済み	自宅
0008	1階	落合 悠太	03-12-34-5685	2023/11/10	登録済み	自宅
0009	1階	落合 未来	03-12-34-5686	2023/11/10	登録済み	自宅
0010	1階	落合 大地	03-12-34-5687	2023/11/10	登録済み	自宅
0011	1階	落合 光希	03-12-34-5688	2023/11/10	登録済み	自宅
0012	1階	落合 遥香	03-12-34-5689	2023/11/10	登録済み	自宅
0013	1階	落合 大空	03-12-34-5690	2023/11/10	登録済み	自宅
0014	1階	落合 悠斗	03-12-34-5691	2023/11/10	登録済み	自宅
0015	1階	落合 未来	03-12-34-5692	2023/11/10	登録済み	自宅
0016	1階	落合 大地	03-12-34-5693	2023/11/10	登録済み	自宅

落合学区  
安否確認システム

## 検討会参加者の声

地域住民

落合学区の居住者に安否登録を進めていくのがよい。役員が登録の支援をすることで取り組みを進める。

地域住民

避難所の開設・運営は、避難してきた人にも協力してもらえるように伝え、理解をしてもらうことも重要

### ▶ 参考になるポイント

#### 安否登録を通じた「要配慮者の支援」、顔の見える関係づくり

安否確認システムは、登録している人に対して、「避難情報」が出ていることを通知する情報伝達システムでもあるため、あらかじめ配慮の必要な人や家族にも登録していただくと、避難の呼びかけをサポートするツールにもなる。実際に配慮の必要な方のお宅に向いて登録促進を行うことで、顔の見える関係も作るようになるため、今後、この登録の促進を進めることとなった。

## 検討会の参加者

- 地域住民：約30名（落合学区自主防災会連合会）
- 行政職員：2名

## 検討会で話し合った内容

### (1) 避難所運営の効率化

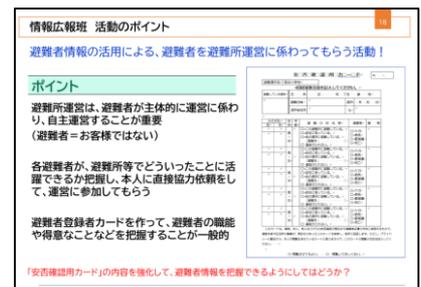
- 広島工業大学より、デジタル技術を活用し、受付時点で避難者情報を登録し避難者管理を行うことが効果的な被災者対応の実現につながるとの説明があった。
- 今年度行う訓練の中で、避難者情報登録の試行を行うこととなった。

### (2) 各班の活動とポイント（マニュアル内容）

- 避難所運営を担う、情報広報班、施設管理班、救援救護班、食料物資の各班が実施する内容について、特にポイントとなる事項について確認した。
- 続いて、各班ごとに分かれ、班の活動内容及び、今年度実施する訓練で取組む内容と班員の役割分担、訓練までの準備事項について、班長を中心に検討した。



避難所効率化に関する説明の様子



各班の活動のポイント説明



各班での検討の様子

## 検討会参加者の声

 地域住民

班の役割に応じ、自分が何をすればよいか理解しておく必要がある。わかりやすいマニュアルがあるとよい。

 地域住民

訓練では、班としてどんなことをやることになるのか、訓練に参加する人に説明できるとよい。

## ▶ 参考になるポイント

### 避難所開設・運営に関する訓練を通じた活動の確認

避難所の開設・運営における班の活動について、訓練を通じて、実際どうすればよいか、確認するとともに、実際、マニュアルに記載内容が適しているかも確認できるとよい。

## 訓練の参加者

- 地域住民：約70名（落合南1～5丁目の住民、落合学区町内会連合会、安佐北消防団、自主防災会連合会）
- 行政職員：約10名
- 施設管理者：1名

## 訓練の内容

### （1）災害を想定した避難訓練

- 災害が発生したと想定して、住民一人一人が、自宅から、避難先となる落合小学校まで移動する避難訓練を実施した。

### （2）避難所受付訓練

- 落合小学校まで避難してきた住民に対し、受付を行う訓練を実施した。訓練では、実際に様式に記入する受付と、ICタグを活用した受付を実施した。

### （3）避難所運営訓練

- 避難所運営委員会の各班の対応について、各班から住民に対して発表を行った。その際に、運営時に使用する資機材の設置や使い方についても、実際に見せながら説明した。また、避難者の健康のための体操を実施した。



避難及び受付訓練



様式への記入



段ボールベッドの設置



飲食料の配布



健康体操

## ▶ 参考になるポイント

### 避難所運営時の対応と流れについての確認

避難所運営時の対応は多岐にわたっており、一度にすべての訓練を実施するのは困難であるため、避難所運営時の対応をいくつかの班で分け、各グループが1班ずつ、対応について確認をして、住民全体に発表した。この訓練により、まずは、住民全体が避難所運営時に実施すべきことを把握することができた。